

別紙 2

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	水沢市立南中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数 38
学級数	6	7	6	1	20	
生徒数	237	264	220	6	727	

研究の概要

1. 研究主題

「自ら学ぶ生徒の育成」 - 基礎・基本の定着を重視した指導法の改善

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- * 実施学年 第1～3学年全学年
- * 実施教科 全教科(国語 社会 数学 理科 英語 音楽 美術 保健体育 技術・家庭)
 - ・ 全校体制で学力向上フロンティアスクールの取り組みを推進するため、全学年、全教科とした。
 - ・ 「少人数などきめ細かな指導」の授業については、数学・英語の2教科で実施した。これは、今までも数学・英語で取り組んできたことと、生徒の実態に応じたものである。

(2) 年次ごとの計画

- * 平成15年度より指定

平成15年度	<p>テーマ 「自ら学ぶ生徒の育成」 - 基礎・基本の定着を重視した指導法の改善</p> <p>研究の見通し 研究仮説 各教科において、基礎・基本の定着を重視した指導法を改善することにより、自ら学ぶ生徒の育成が図られ、確かな学力を向上させることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 基礎・基本の定着を重視した指導過程の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の実態を踏まえ、それぞれの教科における効果的な指導過程(生徒にとっては学習過程)の在り方を実践的に明らかにし、その成果を蓄積する。 * 学力向上の基本は毎日の授業であり、1時間1時間の授業を大切に進める。そのためには、日常的にお互いに授業を参観し実践交流を図るとともに、単位 </p>
--------	--

時間の展開案や授業記録を継続的にまとめる等の工夫を行う。

評価方法や評価結果に対する手だての工夫・改善

- ・ 授業と評価テストを関連づけながら、評価項目に対する評価問題を想定して指導を進める。また、特に「努力を要する生徒」へは補充的な学習の時間を確保し指導を行う。

「少人数などきめ細かな指導」の工夫と改善

- ・ 数学、英語で取り入れられる少人数指導について、生徒の実態を踏まえながらより効果的な指導の在り方（グループ編成、指導過程の位置付け等）を実践的に明らかにする。

選択授業の工夫と改善

- ・ 生徒の実態をふまえ、基礎・基本の確実な定着を図るため行う「フロンティア選択」について、T₁とT₂との連携を図りながら、より効果的な指導を進める。

基本的な学習習慣の育成や基盤となる学級づくりの工夫と改善

- ・ 教科担任と学級担任が連携して基本的な学習習慣の育成に当たり、学級が学びの場として形作られるよう指導に当たる。

授業以外の場面における学力向上の取り組みの在り方

- ・ 朝の読書や放課後のドリル学習、日常の家庭学習などにどのように取り組ませればよいか実践交流を深めながら、より効果的な指導を進め、その成果の蓄積を図る。

* 平成15年度からの継続研究を一層深めるように取り組みを進める。

* 平成15年度の成果と課題を踏まえて、研究体制の見直しを図り研究をより確かなものとする。

平成16年度

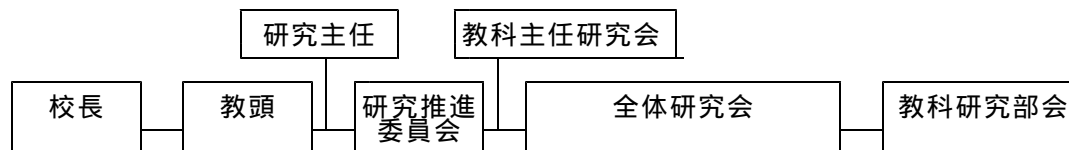


* 研究の中心

* 研究の土台

* 研究の方向付け・検証

(3) 研究推進体制



* 平成15年度は上記のような体制で取り組んだが、平成16年度は2(2)に示したような研究体制で研究を推進する予定である。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

6月の総合訪問及び第1回道徳授業地区公開、11月の第2回道徳授業地区公開兼市内一斉学校開放日の授業などの機会をとらえ、全員が指導案を作成して授業公開に臨むことができた。

その際、

- ・ 本時(本単元)における「基礎・基本」は何か
- ・ 生徒の実態(レディネス)はどうか
- ・ どのような指導を行い定着を図っていくか(それをどのように評価するか)

を意識しながら指導案を作成し、授業を行い指導方法の改善に取り組んだ。そしてそれらの授業を基にしながら、「私のこの1時間」として、自分の授業実践を振り返りながらまとめることができた。

9月以降、3回にわたって全体研究会をもち、研究を深めることができた。

9 / 10 数学第3学年～習熟度別に分かれた数学指導の在り方

英語第3学年～TT指導におけるT1とT2の効果的な連携の在り方

10 / 6 社会第1学年～一斉授業における個に応じた指導の在り方

理科第1学年～グループ学習を通じた個に応じた指導の在り方

11 / 4 国語第3学年～グループ学習を通じた個に応じた指導の在り方・学習習慣の育成

教科の垣根を越え、授業を見せ合うことによって、以下のことについて学び合うことができ、それぞれの授業実践に生かすことができるようになってきた。

- ・ TT指導～T1とT2の効果的な連携
- ・ 学習課題の設定～内容を問う課題から、方法を問う課題へ
- ・ グループ学習～小集団におけるリーダーの育成
- ・ 個に応じた指導～一人一人への目配りや気配りをし一人一人の力を伸ばす
- ・ 評価活動～どの場面でどのように評価をすればよいか
- ・ 学習習慣～くり返し指導することの重要性

「フロンティア選択」「ドリル学習」「学習コンクール」などにより、基礎・基本の定着を図りながら、「分かる・できると楽しい」「(コンクールで)合格できてうれしい」「次も頑張ろう」など、学習意欲の向上を図ることができた。

10月に行われた岩手県学習定着度状況調査における校内の正答率は、以下の通りである。

	国語	社会	数学	理科	英語
第1学年	82(78)	72(68)	77(73)	66(57)	80(75)
第2学年	57(55)	59(56)	66(66)	53(61)	58(61)
第3学年	53(51)	65(63)	72(70)	70(68)	55(53)

* ()は、県の平均正答率

2 今後の課題

課題

学力向上の基本は、何と言っても毎日の授業である。したがって、毎日の授業を充実させていくことが課題である。そのためには、専門性に根ざした教材分析、一人一人の生徒に対する的確な実態把握、確かな指導技術が前提となる。

数学・英語で取り組んでいる「少人数などきめ細かな指導」の授業については、単に学級を2つに分けて指導したり、1つの教室に2人の教師が入っての指導のレベルから、より効果的な指導の在り方について実践的に研究を深める必要がある。また、「少人数教室」

が各学年に設置してあるので、その教室経営（掲示物、備品の整備等の学習環境づくり）も必要である。

「フロンティア選択」「ドリル学習」「学習コンクール」など、基礎・基本の定着を図る機会をとらえ、その充実に努める必要がある。単にドリル的に復習をするのではなく、CRT検査（教研式標準学力検査）や学習定着度状況調査の結果を踏まえ、底上げを図らなければならない教科（単元）を明確にし、ポイントを絞った指導を進めなければならない。

学習の母体となるのはやはり学級である。学級経営の充実こそが何よりも求められる課題である。生徒指導上の問題の克服を目指していくと同時に、学級を学び合いの場として機能させるようにしていくことが必要である。

生徒指導に関わって、実態を踏まえながら個別に補充的な指導を行ったり、担任と教科担任が連携をとりながら指導に当たったり、スクールカウンセラーや学校適応相談員との連携を図りながら指導に当たってはいるが、十分な成果をあげるにはいたっていない。

来年度の方向性

研究を推進していく場合、研究部の人数が少ないためどうしても効率があがらなくなってしまったり、研究部任せの研究になりかねなかったため研究組織の改善を図りたい。

入学した時点で、すでに学力の差が見られることから、学区内の小学校との連携を図りながら研究を進めていきたい。

各地区の学力向上フロンティアスクールと情報交換や交流を深めながら、より確かなものとなるよう研究を進めていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

- (1) 学習定着度状況調査（岩手県10月実施）
 - ・ 岩手県教育委員会による調査で、すべての児童生徒が身に付けるべき基礎・基本を内容とする。（（1）を参照のこと）
- (2) CRT学力検査（水沢市1月）
 - ・ 水沢市教育研究所による学力の実態を把握するための調査。
- (3) 学習に関するアンケート調査（校内7月・12月実施）
 - ・ 生徒の学習に対する取組の状況を把握するためのアンケート調査。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 学校評議員を交えて、4回の校内学力向上フロンティアスクール研究推進会議をもった。
- * 研究の成果を、水沢教育事務所管内学力向上フロンティアスクール研究推進会議及び、岩手県学力向上フロンティアスクール研究推進会議で発表した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|----------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| 【新規校・継続校】 | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 3学級以下 | <input type="checkbox"/> ~6学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 7~9学級 | <input type="checkbox"/> 10~12学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 13~15学級 | <input type="checkbox"/> 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | <input type="checkbox"/> 少人数指導 | <input type="checkbox"/> T・Tによる指導 | | |
| | <input type="checkbox"/> その他 | | | |
| 【研究教科】 | <input type="checkbox"/> 国語 | <input type="checkbox"/> 社会 | <input type="checkbox"/> 数学 | <input type="checkbox"/> 理科 |
| | <input type="checkbox"/> 外国語 | <input type="checkbox"/> 音楽 | <input type="checkbox"/> 美術 | <input type="checkbox"/> 技術・家庭 |
| | <input type="checkbox"/> 保健体育 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input type="checkbox"/> 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |